小学生高学年の部

特選

「ありがとう」の気持ちをこめて

石巻市立渡波小学校　５年　佐藤　来夢

ぼくたちにとって、水は「命」そのものだと思います。

ぼくらは毎日、たくさんの水を使って生きています。朝起きたらトイレを使い、水を流して手を洗います。ごはんの後には歯みがきをして、のどがかわいたら水を飲みます。気持ちのいいお風ろにも、たくさんの水が使われています。毎日食べている野菜や果物も、水をあげることで育っています。だからぼくたちは、水がないと生きていくことができません。

ぼくが三才のとき、東日本大震災が起きました。

ひなんしていた学校では、毎日、少ない水で歯みがきをしたり、手を洗ったり、飲み水としてみんなで水を分けながら使っていました。もったいないので、きちょうな水を少しずつ大切に使いました。

その後、学校からおじいさんの家へとひなんをしたときには、毎日、給水車が家に来てくれて、給水車のおじさんが持ってきた水で生活をしていました。

水を持ってきてくれたおじさんは二人で、遠い秋田県から来ていたそうです。毎日、ぼくたちの家に来てくれていたので、ぼくとお姉ちゃんは、おじさんたちととても仲良くなり、給水車が来るのを楽しみにしていました。でも、一週間くらいたったある日、とつ然に、「おじさんたち、明日で帰るんだ。これからも大変だと思うけれど、がんばってね。」
とつげられ、（もう会えなくなるの）と思い、とてもさびしくなったのを覚えています。おじさんたちが来た最後の日には、お姉ちゃんと二人で、
（今までありがとうございました。もらった水は、大切に使います）
という気持ちをこめて、給水車が見えなくなるまで両手をふって見送りをしました。

おじさんたちのように、他県からたくさんの人たちが、しえんにきて、水を運んできてくれたので、ぼくたちは、水道の止まっていた震災の直後にも生活することができました。

震災時のことを思い出すと、改めて水はぼくたちの生活に必要で、命を支える大切なものだと思います。でも、今、ぼくたちの周りでは、たくさんの水の無だ使いがあることに気付きました。

学校や公園では、たくさんの人たちが水道から出る水を使っていますが、歯や手を洗うときに出しっぱなしになっている水を見るたびに、
（水がもったいないな）
（もっと水を大切にしないと）と思います。

四年生の社会の学習で水道の仕組について勉強した時には、水が安全なじょうたいで家に来るまでには、たくさんの時間や手間がかかることを知りました。水道から出る水が命を支えていること、水が家に届くまでに多くの時間や手間がかかっていることを、どれだけの人が意識して水を使っているのでしょうか。

震災から七年たった今では、水道のじゃ口をひねれば、だれでもかん単に水を出すことができます。だれでもかん単に水を出せるからこそ、その水がたくさんの命を支えていることや、安心して飲めるようになるために、たくさんの時間や手間がかかっているということを、ぼくは、家族や友達にもう一度伝えて、自分の周りから少しずつ、水を大切に使う気持ちを広げていきたいと思いました。

水の無だ使いをへらしていくには、一人ひとりが自分にできることを続けていくことが大切だと思います。給水車で水を運んで、ぼくたちの命を支えてくれたおじさんたちに、「ありがとう」と感じたときと同じように、これからもずっと大切に水を使っていきたいです。